

1. 新世言 「天は誰を助けるのか」 丸山敏秋 倫理研究所理事長 64歳 (P10~13)

平成30年は、明治維新から150年目に当たる。四民平等の明治になると、坂の上の雲を目指す若者たちは、勉学と自己修養に大いに励んだ。とりわけ彼らを発憤させた二つの書物がある。①福沢諭吉の「学問のすすめ」欧米の近代社会の様子を平易に説明し、古い殻を打ち破れと訴える福沢の斬新な主張が、どれほど若者の希望を燃え上がらせたことか。②イギリス人作家サミュエル・スマイルズ「セルフ・ヘルプ(自助論)」三百人以上の欧米人の努力による成功談が集められている。自助努力によって、どんな道でも拓いていける。学問でも修養でも自己を磨き高めて行けば、希望はきっと叶えられる。と、両書は明るい未来の確信を与えてくれた。

しかし昭和の敗戦後は、自助自立の精神が失われて、本当に必要な人たちへの福祉が及ばなくなり、国家財政は破綻しそうです。自らの健康維持に努めることも立派な自助精神の現れです。生活保護をあてにする安直な考えは捨てましょう。時代は益々厳しくなります。今ならまだ間に合います。心の豊かさを目指しましょう!

2. 実践の軌跡「初の沙漠緑化隊、夢は叶うと信じて」 町田倫士さん21歳 沖縄県 (P14~23)

「絶対に行ったほうがいい」お父さんの魂の一言が人生の転換点となった。 沙漠で渡された両親からの手紙、私が生まれる前に、父は心の病を抱え、母は幼い兄と姉を抱えて何とか生活していたが、知人に家庭倫理の会を紹介され、藁にもすがる思いで生活を整え、両親に親不孝を詫びて、挨拶や清掃の実践を続け完治したそうです。

両親への感謝の芽生えによって心が洗われ、様々な困難に果敢に挑んでいく気力が湧いてきました。三線のコンクール最高賞、組踊研修生の試験にも合格。「倫士」の名前の由来を知り、何よりの宝物と思える今が嬉しい。

3. 実践の軌跡「父の心境へ一歩一歩近づき世の為、人の為」 星武司さん58歳 神奈川県 (P24~33)

突然の事業継承、業績の乱高下など二代目社長として試練の中、倫理法人会と出会い、倫理経営の学びと実践が板につきかけた矢先、人生の転機が訪れます。その始まりが社屋の焼失でした。保険金も下りない、融資もストップと大窮地に陥り、最後に頼ったのが父親でした。そしてそこで、両親の真心に触れて、ついに星社長の「純情」は進みます。親に見守られ、すでに許され、救われていることに気づいた時、人は真の迫力を身につけます。

4. 特集「富士の麓で生涯学習」 海拔650m大自然の中で心と体が解放される (P34~49)

16年前に、建築家の内藤廣氏による、木をふんだんに用いた伝統工法と革新的な新技術を融合させた、素晴らしい研究施設ができました。すべての先入観を捨てて、ゼロの気持ちで学んでください。癒され感動体験です!

5. 明日へのエール「社会のため、地球のために、志は高く掲げよう」 伏木久登研究員 57歳 (P50~53)

倫理運動の海外拠点は、台湾、アメリカ、ブラジル、中国と着実に増えています。「志」とは、目標、理想。志がはっきりとして高くなるにしたがって、生活に張りが生まれてきます。アジア、世界の「タグボート(小さくても馬力がある曳き舟・押し船)」になろう! 志が高ければ高いほど、頭は低くする。謙虚な心、これが大切です。

6. わくわく子育て親育ち「親になる自覚が湧いた命名」 田島康賢研究員 45歳 (P58~61)

今回は長男の命名について紹介します。座右の銘は「虎は風を起こす」敢然と立って事に当たると、人も環境も変わり、時勢も動くと言う例えです。そこで「大雅」(大我・人のために生きられるも込めて)と命名しました。

子育てアドバイス 「5歳の娘のおねしょ」子育てセミナーにて、次の3つを実践することを指導頂いた。

①娘の布団を新品にする②失敗したときは「大丈夫だよ」と安心させる③見えないところ(排水溝など)の掃除。夫に話すと協力してくれ、実践して一週間でオムツが外れ、家族皆んなで喜び合いました。

7. 短歌から見る日本人の心「和歌の元祖・スサノオノミコト」 北奥明彦倫理研究所理事 65歳 (P62, 63)

日本最古の和歌は、「古事記」(712年)に載る、スサノオノミコトが詠ったものです。その心は、自分と他人を区別しない「自他合一」の邪心のない清らかな、嘘偽りがない、ありのままの心です。